

2020 大阪人間科学大学
オープンキャンパス 入試対策講座

国 語

東京アカデミー

2020年度入試の問題分析と学習アドバイス

[問題分析]

問題の分量

大問数はすべて2題で、小問数は合計 27～36 問となっている。

出題の傾向

公募推薦入試・一般入試ともに問題文は、現代社会の諸問題や生活の中に見られる社会現象をテーマとした論理的文章であり、新書類からの出題も多い。解答方式はすべてマーク形式である。

出題の内容

文章読解力を問うものが中心であるが、国語の基本知識を問うものも出題される。

文章読解力をはかる問題

傍線部の内容についての理解を問うもの

指示語の指す内容を確認するもの

空欄に適語を補充するもの

脱文を本文の正しい位置に戻すもの

筋道を考えて文を並べ替えるもの

本文の内容や趣旨を考えるもの

国語の基本知識に関する問題

漢字、部首、音訓読み、語句の意味、対義語、類義語、文法、修辞技法、四字熟語など

難易度

全体として、基本的な読解力と国語の知識を身に付けていれば十分合格点がとれる良問であるといえる。しかし、語彙力が不足していたり長文に慣れていなかったりすると解けないので、ある程度の読解のトレーニングを積んでおかなければならない。

[学習アドバイス]

① 論理的な読解力の養成

文脈をしっかりととどりつつ、筆者が「何について」「どのようなことを主張している」のかを的確につかむ読解練習をしておこう。ほとんどの試験の最後に「内容合致」問題があり、本文全体を正しく読めているかどうか確認される。重要なセンテンスを押さえたり、どんなことと対比することで主張を明確にしているかを考えたりして読みたい。

対策としては、現代文の標準的な問題集や本大学の過去問題を用いて、出題者が何を尋ねているのかをよく考え、解答の根拠となる部分を本文中に見つけ、正解を選ぶ練習を積み重ねておくことが必須である。さらに、日ごろから新聞のコラム・特集記事・新書などを読み、さまざまなテーマに触れておくことも大切だ。

② 国語の基本的知識のストック

・漢字

表意文字としての漢字を理解しながら覚えておかなければならない。公募推薦入試(SA 日程)ではこざとへん・さんずい・のぎへん等漢字の部首が問われている。また、公募推薦入試(SB日程)で、「臨む(のぞむ)」「怠る(おこたる)」「営む(いとなむ)」という訓読みが問われている。

漢字はすべての日程の試験に出題されているので、しっかり学習しておきたい。

・語彙力

「鶴の一声」「危惧」が公募推薦入試(SB 日程)、「不慮」が公募推薦入試(SC 日程)、「額に汗して」「固執」が一般入試(SB 日程)、「最たるもの」「時期尚早」が一般入試(D 日程)で出題され、語句の意味が問われている。また、空欄補充の選択肢にも「主観的」「客観的」「受動的」「革新的」などの語が並んでいる。普段から新聞や本を読むときに、わかりにくい漢字や語句についてこまめに調べるくせをつけておくと良いだろう。

・その他

文法に関する問題として「ない」の識別、「だ」の識別も出題されている。表現の修辞技法(省略法・反語・倒置法・反復法・体言止め)も出題されている。『国語便覧』などを利用して学習しておきたい。